

## 令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

- (1) 都立八王子北高等学校 学校運営連絡協議会(全日制課程)
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任兼務)＝事務局長、教務部員2名 計3名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画課(室)長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(進路指導担当)、主幹教諭(生活指導担当)、主幹教諭(保健主任)、第一学年主任 第二学年主任 第三学年主任 計10名
- (4) 協議委員の構成(氏名の掲載も可)  
創価大学教授、東京都立八王子北高等学校PTA会長、八王子市立四谷中学校長、檜原西部町会長、警視庁八王子警察署少年第一統括係長、八王子消防署檜原出張所長、八王子市立檜原中学校学校運営協議会議長 計7名

### 2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和7年6月27日(金) 内部委員9名、協議委員4名  
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出  
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題  
本校の現状と課題等説明、意見交換
  - 第2回 令和7年11月20日(木) 内部委員10名、協議委員1名  
校長報告、各分掌中間発表、学校評価アンケートの内容について、意見交換
  - 第3回 令和8年3月13日(金) 内部委員10名、協議委員2名  
校長報告、各分掌最終報告、学校評価の結果と考察について、学校運営に関する提言、協議、意見交換
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和7年11月 評価委員2名  
今年度の学校評価アンケートの観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
  - 第2回 令和8年3月 評価委員2名  
学校評価アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
  - ① 本校の経営計画に基づいた教育活動に対する生徒・教職員および保護者の理解度を把握する。
  - ② 生徒の学校に対する評価および生徒自身で成長の度合いを理解する。
  - ③ 地域社会の評価から教育活動を対外的に把握するとともに、その改善に取り組む。
  - ④ 基本的な学力向上を目標に、生徒の学習に対する意識や家庭での自主的な学習時間の実態を把握する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・11月 全校生徒	対象:488人/580人	84%
・12月 保護者全員	対象:101人	17%
・12月 地域・住民	対象:47名	47%
・12月 教職員	対象:40名	100%
- (3) 主な評価項目
  - ① 生徒対象・・・ 授業、生活指導、特別活動、進路指導、学校生活
  - ② 保護者対象・・・ 授業、生活指導、特別活動、進路指導、学校生活(対生徒・対教師)、その他
  - ③ 教職員対象・・・ 授業、生活指導、特別活動、進路指導、学校生活(対生徒・対教師)、その他
  - ④ 地域住民対象・・・ 地域での学校の知名度・生活指導・部活動・開かれた学校づくり・本校への評価
- (4) 評価結果の概要  
生徒にとって授業満足度が9割と高い結果となったが、保護者からの肯定的意見は40%に留まり、わからないと答えている場合が多い。本校の教育活動について理解していただくためにも、授業公開等学校理解の機会を増やしていきたい。

#### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題

##### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ①今年度も Forms を利用した学校評価アンケートを実施した。日頃の教育活動で Teams を利用しており、担任団等の協力もあり、生徒・教職員の回収率を向上できた。早期回収、保護者の回収率増加が来年度への課題である。
- ②地域対象アンケートから全般的に高い肯定的評価を得ることが出来たが、「わからない」と回答した割合も少なくない。今後もPR活動を推進して行く必要がある。
- ③今回のアンケートでは、昨年度と比較し高い評価を得られているが、今後も、生徒の高校生活を充実させ、高校生の力を活かした地域活動の中核とすべく、本協議会の活動を充実させていきたい。

##### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ①生徒が「わかる」を実感でき、「考え方」を学び、主体的に学力を伸ばしていく授業を目指して、授業内容・方法をさらに工夫し実践していく。
- ②生徒、教員共に授業満足度は高いが、保護者の肯定的な意見は 40%に留まっている。授業公開等授業の様子を知らせる機会を設けているが、参加者も少なく実際には授業の様子を伝えきれていない部分もある。広く周知し保護者に学校の様子を伝えていくことが必要である。
- ③募集対策を見据えながら、PR活動をさらに充実する必要がある。
- ④大学進学者が昨年度に比べ減少した。受験方法は昨年度と同様年内入試を中心に進学を決定した生徒が多かった。今年度は専門学校を進学先として選択する生徒が約半数を占めた。さまざまな進路指導の取組などにより、進学実績も着実に向上しているが、生徒の進路希望を実現できる授業の更なる充実が求められている。また就職希望者の就職率 100%を維持する必要がある。今年度は公務員希望者が多く、いずれも実績として実を結ぶ結果となった。
- ⑤生徒の自主・自立を育てていく生活指導を継続・発展し、コミュニケーション力・プレゼンテーション力など、社会人としての基本的能力の向上が必要である。
- ⑥従来、小・中学校及び地域社会との連携が学びの場を広げるとともに、地域に生きる学校としての自覚と活動が、生徒の自己肯定感高揚につながってきた。今後も部活動等、積極的に地域活動を取り入れる仕組みを構築していく必要がある。

#### 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項(学校経営計画へ反映)

##### (1) 学校運営

「期待される学校像」の実現を目指し、組織的な教育活動をさらに進める。適切な予算管理と効率的な予算執行を行うとともに、安全な学校生活を図るため施設設備の維持管理をさらに推進する。

##### (2) 学習指導

- ①今後も、少人数指導や習熟度指導などを活用し、基礎基本を徹底して学力向上を図るとともに、希望が高まりつつある大学進学等に対応した授業を展開し、生徒の進路希望実現を図っていく。
- ②家庭における学習時間を確保するため、保護者と連携しながら、「自主的」な学習習慣の確立を目指して、学校全体として取り組んでいく。

##### (3) 特別活動

今年度の北斗祭も昨年度同様、制限なしで実施をし来場者数を伸ばすことができた。その他、学校内行事も計画的に実施することができた。生徒の主体的な活動を支援し、部活動をさらに活性化させたい。

##### (4) 生活指導

- ①保護者と連携して、基本的な生活習慣・規範意識の指導を徹底させるとともに、地域での規律、マナーの指導をさらに推進する。
- ②校内だけではなく、校外でも人に見られているという自覚を持たせて規範意識を向上させる必要がある。

##### (5) 進路指導

インターンシップ・上級学校訪問・授業体験の機会をより充実させ、将来への展望を持たせる進路指導を継続する。また、日々の授業を大切にす姿勢を育て、進路希望実現に必要な学力を育成していく

##### (6) 保健指導

スクールカウンセラーとユースソーシャルワーカーと連携して教育相談を推進し、カウンセリング・アンケートやケース会議などに取り組んだ結果、学校評価アンケートでは高い肯定的評価を得ている。生徒・保護者の期待が大きく、今後も継続していく必要がある。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 6人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
2	2				2	

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 なし

【成果】 なし

8 その他

・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、質問内容を含め検討の必要がある。